

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470800846	事業の開始年月日	平成16年6月1日	
		指定年月日	平成16年6月1日	
法人名	特定非営利活動法人 加齢ライス			
事業所名	ほのぼのほーむ			
所在地	(〒236-0042) 横浜市金沢区釜利谷東7-14-29			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成27年1月8日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月14日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・建物内はすべてバリアフリー造りになっている。 ・掃除が行き届いていて、常に清潔な環境である。 ・リビングの天井が高く、窓も広いので、座っていても外の様子がわかる。 ・ホームの前は、車が通らない小川の流れる散歩のコースがあり、安心してのんびり歩くことができる。又、四季の花が咲き、心が癒され、利用者も職員もリフレッシュできる場所となっている。利用者が最も楽しみとしている場所でもある。 ・午前中の健康体操や午後のレクリエーションに力を入れているため、活気がある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年3月13日	評価機関 評価決定日	平成27年5月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇環境を活かした散歩 事業所の前のアメニティーという小さな川に沿った遊歩道は、車イスの人も安心して通行でき、利用者の日頃の散歩道である。沿道に四季の花々が咲き人気のコースである。</p> <p>◇理念の共有と実践 事業所の理念「介護十訓」は尊厳・笑顔・笑顔と思い遣り・丁寧な言葉遣いなどをキーワードとし、毎朝、職員と利用者が一緒に大きな声で唱和し日頃の生活に活かしている。</p> <p>◇医師との連携 主治医の月1回の往診では、ケアマネージャ、家族(可能な方)も同席して医師の所見や指示を得て、結果を受診記録に残している。医師とはいつでも連絡が取れる体制である。</p> <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇行き届いた清掃 リビングの窓が大きく、天井が高く、採光が十分で明るく、開放的で気が休まる。築後十年経っているが、屋内は清掃が行き届き、きれいで清潔で気持ち良い。</p> <p>◇体操や歌による機能訓練 利用者は毎日、午前中は身体を覚ますよう健康体操やラジオ体操を行っている。歩行訓練などをする方もいる。レクリエーションでぬり絵、貼り絵、ゲームをし、午前と午後には大きな声で歌を歌い、口腔体操も兼ねて食事が楽しく摂れるように支援している。利用者はみなさん元気で声は大きく、楽しそうな笑顔が印象的である。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ほのぼのほーむ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・独自の「介護十訓」をリビングに掲げ、毎朝利用者とともに唱和し、理念の実践に取り組んでいる。	・ほのぼのほーむ理念（介護十訓）を事務所とリビングに掲示し毎朝、利用者と職員が大きな声で唱和している。 ・「尊厳、笑顔と思い遣り、丁寧な言葉遣い」などを十訓のキーワードとしケアに反映している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に入会し、ごみ収集日には掃除に参加している。 ・散歩コースになっているところでは近隣の方々と挨拶を交わしている。	・町内会に加入し、地域情報を回覧板から得ている。お祭りの神輿を見物している。地域の防災訓練にも職員が参加している。 ・ギターや歌、日本舞踊などのボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・徘徊高齢者SOSネットワークに登録し、協力態勢をとっている。 ・相談事にはその都度対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見サービス向上に活かしている	・近隣在住の職員が多く、常に情報は持ち寄っているが、今後の課題である。	・運営推進会議はしばらく開催できないで来たが、今年2月に先ず内部職員で試行的に開催した。4月以降は継続的に開催にする意向である。	・運営推進会議は継続的に開催されることを期待いたします。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・ホームでの判断が難しいことは、横浜市、金沢区の窓口にご相談している。	・金沢区の高齢・障害支援課と保護課を必要に応じて訪問し、近況報告をし助言を受けている。 ・地域包括支援センター職員の来所時に情報交換をしている。 ・横浜市および金沢区の研修会に参加する。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・当然のことなので、職員全員で話し合い、安全を優先している。 ・玄関は夜間以外は施錠しないで、自由に出入りしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、入所時研修や日常の業務の中で職員に、身体拘束はしないと話をしている。 ・最近は何人かおり、玄関は家族の同意を得て、施錠している。 	身体拘束防止については、毎年、職員研修を行うことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・あつてはならない事なので、どんなことでも記載できるノートを作り、入浴時に身体の変化の観察をしている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・必要時、ご家族にも具体的に支援ができるように研修も受講している。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に理解し、納得されるまで丁寧に説明している。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・不満・希望については、来訪時や電話などで、お話をうかがうようにしている。また、ご家族の協力を得ながら解決している。 ・「ご意見箱」を設置している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の来訪時に意見や要望を聞くようにしている。しばらく来訪がない家族には電話で聞くようにしている。 ・職員の言葉遣いが悪いとの苦情があり、直ちに注意し改めている。利用者へは謝罪した。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日のスタッフ会議で報告や相談を受けながら、働きやすい環境とともに作り上げていくことを、常に話し合っている。	・毎日のスタッフ会議で話し合い、意見も要望もほとんどその場で解決している。 ・管理者は職員一人ひとりに、タイミングを見て、言葉かけをするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員一人ひとりの個性を尊重し、努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修を受けることはなかなかシフト上難しいが、毎日のケアの積み重ねの中から得るものや、意見交換しながら学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・今年度は出席する機会がなかったが、今後は交流しながら、サービスの質を高めていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・とても大切なことなので、ご家族の協力を得ながら、不安にならないよう要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・安心していただくために、どんな些細なことでも話せる雰囲気づくりを心掛けている。又、電話での相談、来訪時も気軽に話せる体制をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・個別性を大切にし、優先順位を見極めながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・残存機能を活かし、出来たことは共感し合える気持ちを表現しながら、安心できるように家庭的な場所づくりをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族の現状を理解しながら情報を交換し、不安な状況を解決している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの方には、いつでも訪問してもらえるように対応や環境づくりをしている。	・馴染みの関係者も少なくなっているので、来訪者には一層ねんごろに支援している。 ・行きつけの美容院へ家族と行く方がいる。 ・電話の取次ぎや、年賀状のやり取りなどの支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者一人ひとりの性格・個性を理解し、良い関係づくりができるように、スタッフが把握しながら居心地の良い場所づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・いつでも気軽に相談・支援できる関係にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・一人ひとりの希望や思いを伺っている。困難な利用者については、表情、しぐさ、声の調子などで、本人の思いを汲んでいる。	・日頃の生活の中で希望や意向を聞き取るようにしている。 ・把握が困難な場合は表情や仕草から読み取るようにしている。少しずつ、ゆっくり話すと理解できることもある。聞き取った情報は申し送りノートで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に生活履歴をお聞きして、アセスメントの情報を記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々のケアの中で、スタッフは良く観察し、気付いたこと、変化などを毎日のミーティング時に情報を交換して、日々の記録を残している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人・家族・主治医・スタッフ・関係者の意見を取り入れながら、計画を作成している。	・本人・家族、主治医、職員の意見も事前に集めて、カンファレンスを毎月行って、介護計画を作成している。 ・通常は3～6か月で、変化があればその都度、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子は介護記録に記入し、共有すべきことは連絡ノートに記載している。 ・スタッフ会議時に意見交換し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・事業所でできないことはご家族などに依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地区センター・近くのスーパー等を利用して利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・毎月、主治医の往診があり、ご家族の付き添いもあるので、情報の共有ができています。症状によっては専門医・病院の紹介もあります。	・利用者全員が、月1回の協力医の往診を受けている。管理者、ケアマネージャ、家族も同席して状況把握をしている。結果は受診記録に記入して共有している。 ・精神科やその他の科目は家族または職員が付添い受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者に変化があった時は、いつでも主治医に連絡できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院側と情報交換しながら、早期退院に向け連絡を図ってきた経験は何度もあるので、今後も十分対応できる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時の説明と状態の変化を早目に医師に相談し、重度化した場合やターミナルに向けた事業所の対応指針を明確にし、家族の理解を得る体制をとっている。	・入居時に終末期などの対応について、本人や家族の意向を確認し、その後の状況の変化に応じて医師、家族、事業所で話し合いを重ね、方針を共有して支援している。 ・職員研修を実施しており、これまでに3件の看取り実績がある。	・重度化や終末期の対応について、事業所の対応指針を明確に文書化して、同意書の申し受けをできることが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・状況を想定し、いつでも対応できるよう話し合っている。 ・急変時のマニュアルで、常日頃確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署の協力を得て、避難訓練に利用者も参加し、年2回実施している。 ・備蓄も2日分用意している。	・避難訓練は年2回、消防署が立ち合い、夜間想定訓練も実施した。 ・近隣在住職員は集まれるが、地域の人々の参加、協力は得られていない。 ・非常用食料・水は2日分と非常持ち出し袋、薬品を備蓄している。	・消防署との連携を図りながら、地域住民に災害時の理解を求めて、協力関係を築いていくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・親しみやすさや馴れ合いになる対応が傷つける言動になりやすいことを常時注意喚起している。 ・職員の入職時に個人情報の守秘義務と誓約書の提出を義務づけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対して常に目上の人に対する尊敬の念を持って接するように、言葉遣いや行動に職員同士で気を付けるようにしている。 ・個人情報の書類は事務所の鍵のかかる書庫に保管し、職員は事務所で書類の記入をしている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の会話の中で、思いを引き出し、最後まで話ができるよう待つ姿勢を大事にしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の体調を見ながら、ご本人のペースを大事にしている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護十訓」にもうたっている。 ・希望により訪問美容師にも来てもらっている。 		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食材は季節感のあるものが多く、好き嫌いなく、完食されている。 ・食事の準備・配膳・片付け・食器拭きなどもお願いしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タマネギの皮むき、もやしのひげ根取りなどの準備、食器拭きなどの後片付けを利用者が手伝っている。 ・クリスマス会にはギョーザを利用者が手作りしたり、寿司の出前や誕生日のケーキなど利用者の好みも反映している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養士の献立でバランスが取れている。個人の状態に合わせて、量を調整したり、きざみ食にしたりしながら、水分量もチェック表で確認することができる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアを実施している。 ・就寝時は義歯洗浄剤を使用している。 ・定期的に訪問歯科医の検査を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・個別ケアの支援を行っている。	・排泄表や観察により、時間を見計らってさりげなく声かけをし、排泄の失敗やおむつの使用を減らすようにしている。 ・たとえ失敗しても、他の人に分からないよう、自尊心を傷つけないように援助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・繊維質の多い食材のほか、水分量、毎朝の体操、散歩を日課にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・日中の明るい時間帯での入浴は好評である。 ・入浴剤の種類も変えて楽しんでいる。	・週2回午後の入浴を利用者は全員楽しみにしており、入る順番は入れ替え制とし、同性介助としている。 ・職員は利用者と会話をしながら、入浴剤やゆず湯、しょうぶ湯なども使って楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・その日の体調や状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の目的は主治医の往診で理解できる。薬剤師に服薬の効能変化についての相談もできるように連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の生活歴を考慮しながら、役割を持っていただき、達成感につなげるように支援している。 ・毎日のレクリエーションに力を入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・入浴日以外は近隣の散歩コースに出掛け、季節感を感じたり、ふだん行けない場所は行事として計画したり、家族にお願いしたりしている。	・季節のよいときには週2回ほど、小川に沿った遊歩道を、鯉が泳ぐ様や花の咲いている様子を会話しながら、車イスの人も一緒に少人数で散歩している。 ・法事や外食などは家族と出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個人の希望、能力に応じ、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族の声を聞きたいときは、いつでも電話を使えるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・行事の写真を皆さんで貼ったり、一人ひとりの作品を飾ったりしながら、季節感、生活感を出している。 ・季節感のある生花も常に置いている。	・リビングの窓は、外の景色や道行く人がよく見え、季節を感じられる。生花やひな祭りなど行事の写真も飾り、季節感を出している。 ・時には利用者も手伝って、清掃を丁寧に行い、窓の開閉や換気口で臭いや湿気の調節をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有できるものを置いたり、毎月の作品を掲示したりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・落ち着いて過ごせるよう、居室にテレビ、タンス、家族の写真等を置くことによって、安心して過ごしていただいている。	・使い慣れたタンスや机、家族の写真や自分で作った作品を飾り、それぞれ利用者の好みの居室になっている。 ・居室の清掃や衣類の洗濯・整理も、できるだけ利用者が自分の力でできるよう職員が援助をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内は全てバリアフリーにし、手すりの設置で安全を優先している。 ・表札の表示によって混乱しないような環境にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ほのぼのほーむ

作成日

平成27年4月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の継続的な開催	2か月に1回	徐々に関係を築いていく	1年間
2	13	地域住民参加型の避難訓練	地域の方々の参加を得て、避難訓練を実施する	個々にお問い合わせする	年内
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。